



2023年10月31日

「JR北海道 廃線跡地活用イノベーションプログラム」 株式会社mmガードがプログラムの第1号として始動します

JR北海道では、2019年に鉄道事業を廃止した石勝線（新夕張～夕張間）、2021年に鉄道事業を廃止した日高線（鶴川～様似間）の廃線跡地について、社外のアイデア・技術を取り入れるためにオープンイノベーションプログラムとして2022年に協業のご提案を募り、今年4月に「JR北海道 廃線跡地活用イノベーションプログラム」における協業事業者様とその案件を発表いたしました。

今般、事業開始第1号として、2021年3月に鉄道事業を廃止した日高線の廃線跡地において、株式会社 mm ガードがドローン開発フィールドおよび操縦実地訓練を始めますのでお知らせします。

1. 事業の概要

場所	新冠 判官館トンネル付近（約1.16km）
概要	ドローン操縦資格取得のための訓練スクールの運営 ドローン物流の実現に向けた長距離飛行訓練場の運営 各種点検用ドローンのAI「Drone View」の開発

2. 今後の予定

11月に事業を開始する予定です。

3. その他

詳細は別紙をご覧ください。

別紙

「JR北海道 廃線跡地活用イノベーションプログラム」
株式会社mmガードがプログラムの第1号として始動します

2023年10月31日



北海道旅客鉄道株式会社
HOKKAIDO RAILWAY COMPANY

株式会社mmガードがプログラムの第1号として始動します

◆場所

新冠 判官館エリアの旧日高線廃線跡地 約1.16km

◆廃線跡地を活用したmmガードの事業概要

①ドローン操縦資格取得のための訓練スクールの運営

産業用のドローンを操縦するためには、一等または二等無人航空機操縦士という国家資格が必要です。この訓練スクールでは、新冠町の日高判官館青年の家で二等無人航空機操縦士の資格取得に必要な訓練をしたのち、廃線跡地で実地訓練を行います。

②ドローン物流の実現に向けた長距離飛行訓練場の運営

ドローン物流を実現させるためには、操縦者の技術だけではなく、電波の不安定な場所での対処を、ドローンの制御プログラムに実装するための飛行テストが必要です。判官館エリアは、廃線跡地の上空を長距離飛行できること、小高い山が電波を遮ることなど、訓練に適した要素が揃っています。

③各種点検用ドローンのAI「Drone View」の開発

mmガード社では既に太陽光パネル点検に活用するAIを開発した実績がありますが、新たな分野で活用できるAIの開発を廃線跡地で行います。



©mmGuard, Inc.

株式会社mmガードがプログラムの第1号として始動します

◆主なスケジュール

- 2023年11月 ・判官館エリアで、点検用AI開発のためのデータ収集開始
・判官館エリアで、ドローンスクールでの屋外飛行開始
- 2024年8月 産業用ドローンのデモフライト(見本市)の開催
- 2026年 物流ドローン実用化に向けた最終飛行テスト



判官館エリア
©mmGuard,Inc.



廃線跡を飛行
©mmGuard,Inc.



出典: 国土地理院ウェブサイト上の地図を加工して作成
<https://mapps.gsi.go.jp/maplibSearch.do#1>